

「児童館の役割」に関する主な委員意見

地域の子育て支援の拠点としての児童館について

- 保育園が5エリアに分かれているように、児童館も5エリアに1館ずつ配置されている。各エリアはそれぞれ地域性を持っており、全てのエリアで同じように運営する必要はないと考える。児童館は保育園と違い、スペースを自由に使えるという利便性を活かし、地域性を活かした運営をする必要がある。
- 乳幼児を持つ親にとって保育園や幼稚園等、相談する場所はあるが、卒園してしまうと対応できないため、小学生の親にとって相談する場所が少なく、その後の親の支援ができていないという現状がある。小学校では子育てに関する相談は対応できないことが多いため、小学生の親への支援としての相談機能が求められる。
- 問題が顕著に表れてしまっている家庭に対しては専門機関が対応できているが、問題が表面化していない家庭に対しては、つなぎ先がない。現在、エリアネットワーク会議というものは設置されているものの、活かしきれていないように見える。こうした会議を利用して、「こういう子がいる→〇〇小学校に行く→学校での様子を情報共有する→卒業する」といった情報共有が出来ればいいが、個人情報保護の観点から難しい実態もある。個人の状況を共有するというのが難しいのであれば、それぞれの施設がどのような機能を持っているのか、児童館はどういう施設なのかといった、施設間の連携・情報共有を行っていくべきである。
- 地域関係の希薄化等により、人と人とのつながりが少なくなっている。かつては、人とつながり、サークルを作り、イベントを実施するという活動がされてきたが、現在は、そういった活動がほとんどない。そういったことから、最近の親のつながり力は低下しているように見え、受け身の状態のことが多い。そのような状況の中、ころころの森では社会福祉協議会と同じ建物内にあることから、ボランティアの方が乳幼児親子と一緒に遊んでくれたり、話を聞いてくれたりという機会があり、世代間交流、また、悩みを聞いてくれるといった重要な拠点となっている。また、子育て世帯の交流も行われており、悩みを共有できり大切な場となっている。こういう現状を見ていると、子育て世帯の交流や世代間交流ができ、悩みを共有できるよう子育て支援の拠点としての機能も必要なのではないか。多くの方は、機会があればそういった活動をするこ

ができる人も多いため、児童館にはコーディネートしていける人が必要である。自分たちのために行動していくことが、後に他人のための行動につながっていくこともある。

- 人と人のふれあいが今はなくなってきた。自分もかつて地域活動団体に自らお願いしに行き、ともに活動し、その後、小学生に教える機会を設けてもらったことがある。その後、町で子どもに会った時に子どもから声をかけることや、子どもが困っていきそうな時に大人から声をかけるといったような、地域一体となった子育て支援を行うことができる。このように、今度、地域の力を利用して、地域一体となって子育て支援をしていく必要があり、その中で、児童の変化を感じ取れるとよい。なお、地域の力を利用したいと考えたとき、こちら側から積極的に働きかけ、関わりを持つことが必要であるが、なんでも公でやってしまうとやりがなくなってしまうので、地域の力を使うことは重要ではないか。
- 配慮が必要な子どもにとっての児童館としての機能については、どのように検討していくかよく検討をしていく必要がある。配慮が必要な子を持つ親は、「子どもを児童館に行かせて遊ばせる」という選択肢は持っていない。近年、放課後デイが増えてきていることもあり、放課後デイは居場所ではあるものの、地域から切り離されてしまっているという印象がある。地域内の活動に参画できる場としての児童館が必要であり、そういう場になるようイベントの実施や使用時間の割り振り等の仕組みづくりを検討するとともに、通える施設としての認識を持ってもらうことが必要である。また、配慮が必要な子どもにとって安心できる場所になれば、結果的にすべての人にとっても安心できる場所となっていく。
- 小学生や未就学児の子育て支援をするにあたっての専門性という部分について、共通する部分があるものの求められる資質としては異なる部分もある。実際に、未就学児には自主性・自立性の支援という部分、小学生には学習の支援と言われている。しかし、小学生にとっても日常生活の中で自主性・自立性の支援も重要であると思う。現在、児童館と家庭との距離は遠いと感じるため、距離を縮めることも必要である。
- 児童館職員には、これらの拠点となるために必ずしも専門的な資格が必要なのではなく、コーディネート力が必要となる。自身の団体においても、経験を重ねることでコーディネート力が身につけていっている。コミュニティを形成して、イベントを実施するという経験を重ねていくことも大切である。
また、保護者にとってもいきなり交流グループの中に入るのは難しく、まずは1対1の信頼関係を築いていき、その後、交流グループでの信頼関係を築いていくというステップが必要である。そのために、児童館は人と人をつなげるコーディネートしてい

く、また、そういう活動の支援をしていくといった機能が求められる。

- 子どもにとっての児童館は「遊べる場所」であり、「友達と行って、ゲームやバスケをするところ」と思っているのが現状。「1人でも行ける場所」「何もなくても行っていい場所」という意識を持ってもらう必要がある。そして、保護者にとっては遊べる場所というだけでは児童館に行く機会はなく、「相談できる」「イベントがある」といったような+αのメリットがないと行かない。このメリットを入口として、継続して通える場とすることが必要であり、やはり職員にはコーディネート力が求められる。
- 子育て現場では、発達関係の対応が多くなっている。子育て施設の職員は研修等により、基礎的知識を身に付けるよう取り組んでいると伺っている。児童館職員においても、いろいろな対応が求められるため、必ずしも専門的な資格を持っている必要はないと思うが、研修受講等で基礎知識を身に付け、一定程度の専門性を持つことは必要である。
- 地域ネットワークに市が参画していくことで、市がやってくれる、市に話をすればいいとなってしまい、地域のつながりが薄れてしまっているのではないかと懸念される。

乳幼児家庭のための児童館について

- 乳幼児、小学生、中高生のそれぞれの発達段階や年齢層に応じた多様なニーズがあり、それぞれのニーズに応じた施設運営は必要である。現状を見ると、乳幼児親子はイベントがないと児童館に行かない、もしくは行きづらいと思っている。また、小学生（特に高学年の児童）がいると危ないと感じてしまうので、行きづらいのが現状である。そのため、乳幼児親子向けの単発ではない複数回のプログラムや乳幼児親子が安心して利用できるスペースの整備や拡充が求められる。
- 保育園や幼稚園に通っている5歳児を対象に学校見学が行われ、1年生と遊ぶ機会を作ってくれている。こういったように、保育園や幼稚園のプログラムの一環として就学前に児童館見学を行い、入館受付の方法、施設説明等のオリエンテーションを行ってもらえたら児童館に行きやすくなるのではないかと懸念される。
- 児童館との距離が近くなることで、小学生以降も児童館に行きやすくなる。小学生にとって行きやすい児童館であれば親にとっても行きやすい児童館となり、逆に、親にとって行きやすい児童館であれば子どもにとっても行きやすい児童館になるといったような相互

関係があると思う。まずは、乳幼児向けのイベントを実施するし、親と児童館の距離を近くし、最終的に子どもが自主的に行きやすいようにすることが望まれる。

- 乳幼児親子にとって、親子の触れ合いが基本であり、大切なことである。児童館で読み聞かせを行う場合など、小学生の場合は1対10でもいいが、乳幼児の場合は1対1の方がいい。とはいえ、親子の関係を他人が作るのは難しいし、親の代わりにはなれないが、共働きによって夜家庭に親がいない家もある。児童館は家庭の代わりをしてあげることができないが、欠けている部分を埋めてあげることができると思う。また、児童館においては、乳幼児親子の触れ合いの場の提供としての機能を充実させる必要がある。
- 児童館は5つのエリアに1つずつ設置されているが、住んでいる場所によっては遠いこともある。近くにあれば行くけれど、遠かった場合、何もなければ行かない。最近では、保育園でも離乳食の試食会とかが行われているように、利用者が行きたいと思えるイベントを実施し、行きたいと思える施設にしていく必要がある。

小学生のための児童館について

- 現状、小学生向けのプログラムは充実しているように見えるが、親が求めるものも多様化してきていることもあり、今後はタブレット等 IT 関連のものを使って遊ぶなどのプログラムが導入されてくるのではないかと。また、一方的に提供するのではなく、自ら企画するという選択肢が必要。室内でも体を十分に使える施設があったら良いと思う。
- 小学生にとっての児童館は「遊びの場」の提供のみになってしまっていると感じる。子どもたちを巻き込んだイベントの実施について充実させていく必要があると思う。学校では、学習指導要領に則ったことしか学べない。児童館では、それ以外の自由な学びができたらいと思う。例えば、体重計に乗って力を入れたら、体重は増えるのかといった科学の実験、他にも、裁縫教室、料理教室等。指導員は研修を受けているものの、事業化されおらず、積極的にイベントを実施していく必要があるが、必ずしも職員がやる必要はなく、地域の人に先生になってもらうことでも実現可能である。そのために、ネットワーク会議を活用することもできる。児童館は、保育園等の子育て施設とは違い、マストのものがなく、自由度がある。そういったことから、児童館は可能性を持っている施設である。
- 子どもに対し「あれをやれ」「こうしちゃいけない」と管理をしてしまうことは、子どもにとって必ずしも良いことではない。学校においては「管理する」という役割は大切であるが、放課後は「自由に過ごす場」であったり「大人と関われる場」であったりという役

割の方が重要であり、学校の延長にならないようにすることが必要である。子どもたちにとって、自由な発想を持って過ごす場となるような役割をもっている必要がある。

また、子どもにとって、大人と付き合う場は、家庭では親、学校では先生となっていて、それ以外の大人と付き合う場が少ない。自分より目上の人がいるという認識を持つことが、社会性の第一歩であり、大人と1対1の関係を築けることも必要なのではないか。児童館はそういった大人と関われる場としての機能が大切である。

- 児童は自分たちで企画実行することで、自律や自主性を育んでいく。実際、自身のNPOでは、異世代の子どもたちが企画・実行していくイベントも実施しており、その活動のなかで、年上の子どもが年下の子どもの面倒を見たり、頼られたりする機会が多く見られる。こうした活動を通じて子どもは自己肯定感を身に付けていく。児童館でも、児童自ら企画・運営を与える機会の提供が求められる。
- 放課後子ども教室では、まず宿題をやるようにしている。その時、指導員の膝に乗って宿題をやる子どももいることから、大人との十分な接触ができていないように感じる。スキンシップや甘える場を持つことは、本来、親がやるべきことではあるが、足りていない現状がある。他にも、一輪車がおいてある学校では、勝手に練習をしても乗れるようになる子が少ないのに対し、先生が手を取ってあげることでいきいきと練習する子どもが多く、乗れるようになる子どもが多かった。異性の指導員が子どもに触れるのは難しい現状はあるため、同性の指導員が対応する等の対策をする必要はあるが、児童館もしくは児童クラブにおいても子どもが甘えられる場としての機能があってもいい。これまでの経験から、宿題をやっているときに甘えてくることが多いと感じているため、その一歩として、宿題を見てあげる場を設定するのも良い方法だと思う。そういうことをきっかけに、子どもにとって頼りになる職員につながっていく。

中高生のための児童館について

- 児童館においては、年齢に応じた対応が必要であるが、現状としては小学生がメインターゲットとなっており、中高生への支援が弱いように感じる。子どもが過ごす場所としては家庭、習い事、公共施設等、家庭によって考え方が違う。自分の家庭では中学生の子どもが夜間に外出することは少ない。自分自身も部活動で夕方は学校にいたることが多かったため、中学生にとって夜間の居場所が必要なかどうか、どの程度需要があるのかわからない部分がある。高校生はともかくとして、中学生は未だ積極的な夜間の外出利用には馴染まない年代なのではないか。ただ、親が仕事等で家にいない家庭もあることを考えると中高生が夜間に行ける場所が必要なのか、検証すべきだと思う。

従って、夜間開館を拡大していくこと自体の検討はして良いと思うが、東村山市内では現在、唯一夜間開館を実施している、複合館（富士見文化センター）の中にある富士見児童館におけるサービス利用の確認をしたうえで検討し、複合館ではなく児童館単体として開館している、その他4つの児童館における夜間開館についても検討することを考える。その際、必ずしも現在の児童館の施設機能の範ちゅうで市民ニーズに応え得る様々なサービスを直接展開する必要は無く、公民館や図書館などとも機能分担を図り、効果的な活用を模索しても良いのではないかと。

- 現在、市内の児童館で夜間開館を行っているのは富士見児童館のみとなっている。とはいえ、夜間開館といってもイベントを実施しているわけではなく、場を開放しているだけとなっている。音楽やスポーツ等、普段経験できないものを経験するきっかけや中高生が興味を持ちそうなものを提供するといったことが必要である。子どもたちは、その中から自分たちで選択して参加し、自分の可能性を見つけ出していくものである。
- 児童館は、子どもが行く施設というイメージを持っていることが多い。中高生の利用拡大にあたっては、夜間開館の拡大や、中高生向けのイベントの新規実施等が考えられるが、現状を考えると、このまま利用拡大を図ったところで、中高生が場所の情報を得るのは難しいと思われる。中・高生でも行きやすいというイメージを持ってもらうことも必要であり、情報発信をしていくことは必要である。ただ、利用拡大を図ったところで、実際の利用があるかどうか分からないが、利用が少なくてもそういう場を確保することも必要なのではないかと考える。
- 現状の児童館は、中高生へのサービスが弱い。小平には小平地域センターやなかまちテラスという施設があり、中高生が勉強している姿をよく見かける。実際、児童館は小学性が利用していることが多く、その中で勉強するというのは難しいものがある。中学生が利用しやすいような時間帯を設定することで、友達と勉強できる場所、または、外出する場所と認識してもらえれば、中高生の居場所となるのでは。また、さまざまな事情で学校に行けない子どもも多くいる。そういった子どもの居場所になることも必要では。ただし、中高生にとっての居場所が複数あるなかで、中高生が行く施設とするためには、魅力ある施設でないといけない。親の立場から見ても、家ではできないスポーツ体験や、利用料が民間より安い学習塾といったようなメリットがないと子どもを行かせようとは思わない。実際に、現在、富士見児童館の夜間開館を利用している中高生にどのようなイベントがいいか等のアンケートを取ってみたりするのもよいと思う。

安心・安全な場としての児童館について

- 児童が相談したい時に相談に行けるよう児童館にも相談機能が必要である。また、児童が相談にいけるような施設になるためには、信頼できる職員がいることが重要である。また、相談に乗る職員が必ずしも専門的な資格を持つ必要はないが、相談に対応できるよう必要な研修を受ける等、スキルアップを図ることは必要である。
- 保護者にとっては、相談内容によって異なる機関へつなげられることもある。その際は、それぞれの機関で相談内容を説明しなければならず、保護者の負担になっている。1つの窓口で解決する必要はないと思うが、相談内容に応じて適切な機関へとつなげるとともに、エリア内関係機関で情報共有・連携を図ることで、適切な支援を行うことができると考える。
- 児童館では遊びの提供としての機能を持っている。遊びの場としての機能もこれまで通り必要ではあるが、今後は困りごとがあった時の受け皿になれる機能があると安心。児童館の相談機能として、子どもの相談を受けるのか、保護者の相談を受けるのか、地域ネットワークからの相談を受けるのか。子どもについて問題を抱えている保護者は既にいろいろなところに相談に行っている場合が多いと思う。その場合の相談機能を有するとなると専門的なことが求められてくるとわれ、専門的な資格・知識を持った職員が必要となる。相談の受け皿となる場所は他にもあるため、もし、相談機能を持たせるのであれば、どこまでの相談を受けるのか、また、相談の最初の受け皿となる機能についてもどこまで対応できるのか等の検討し、適切な役割分担のもとに関係機関と共に進めていき、児童館として、どのような相談機能を持つのかを確立することが重要なのではないかと考える。
- 子どもにとっては、悩みを相談出来たり、話を出来きたりする大人の存在が大切である。親と話が出来るのは一番ではあるが、それが出来ない家庭もある。また、多感な年頃の子どもが学校や親に話たくないこともある。そういった時、子どもが話を出来る存在が必要で、児童館がそういう場になっていければと思う。
- 児童館では、子どもたちの居場所の確保をすることが必要である。相談については、現状、専門機関が存在しているため、児童館ですべてを解決するような役割を持つ必要はないものの、相談を受けられるよう間口を広くし、受けた相談についての繋ぎ先や解決方法を示せばいい。

- 相談機能については、専門機関が多くある中で、児童館では相談というレベルまでの機能は必要ではなく、話を聞いてくれるレベルの機能で十分だと考える。通っていく中で、相談事も含め、話ができるようになっていくことから、職員には専門的な知識ではなく、話を聞いてくれる、理解してくれる力が必要であり、傾聴力のスキルアップをしていくことが大切である。
- 子ども達にとっての安心・安全な場が求められる。子どもにとって、安心安全な場になるためには、話したい職員や寄り添い見守ってくれる職員がいることが大切である。

その他

- 今後の児童館・児童クラブの運営について、引き続き、公営で運営していくのは人員的にも金銭的にも難しいと思われる。また、公営よりも民営の方が優れている部分が多く、民営化することで市民ニーズに対応できるのであれば、民間活力を活用すべきである。
- 児童館は0～18歳が対象年齢となっており、対象年齢が広い。今後の児童館としての機能を検討していくなかで、保護者が求める機能を有するのか、子どもが求める機能を有するのか、を検討していく必要があるのではないか。
- 現在、青少対も含め、地域で活動している団体も多く存在する。いろいろな団体がイベントを実施しており、日程が重なってしまっていることもある。その結果、行きたいけど行けないといったことやイベントが多くて人が集まらないといったこともある。横のつながりを持ち、日程等調整を行う必要があると感じている。
- 子どもにとっての居場所は複数あることは重要であり、家や学校で嫌なことがあった時、他にも行き場があることは、子どもにとって強みとなる。児童館は無償で開館時間であればいつでも行ける施設である。しかし、保育園や幼稚園に観劇、遊ぼう会の周知があつて児童館に行くことはあつても、どんな施設なのか、何ができる施設なのか、また、子ども達は児童館の存在を知らないという現状がある。児童館についての情報提供を行い、児童館が子どもにとっての1つの居場所となるようにしたい。